

第8回

平城京展

—奈良市の最近の発掘調査成果—



1990

奈良市教育委員会

あいさつ

奈良市教育委員会では、毎年、平城京の発掘調査を行っています。近年では、市街化の波が古都奈良にも押し寄せ、そのため埋蔵文化財の発掘調査も増えつつあります。

今回の平城京展は、こうした近年の多くの発掘調査のなかから主要なものを選び、その出土遺物を中心に公開、展示することになりました。平城京を中心としておりますが、最近しだいに明らかになってきた平城京以前の弥生時代、古墳時代の展示も行っております。

この展示により、近年の埋蔵文化財の調査成果を知っていただき、文化財保護に対する一層のご理解を深めていただければ幸いです。おわりに、今回の展示を開催するにあたり、御協力をいただきました関係機関各位に心より感謝申し上げます。

平成2年11月15日

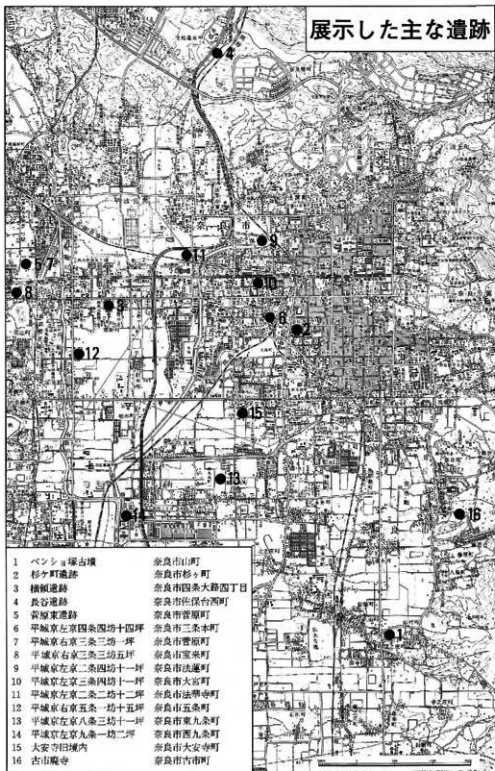
奈良市教育委員会

教育長 久保田正一

例言

1. この冊子は平成2年11月15日から11月20日まで開催の『第8回平城京展—奈良市の最近の発掘調査成果—』の展示パンフレットとして作成した。
2. 本展の展示物の出展にあたり、奈良国立文化財研究所、帝塚山考古学研究所、大和郡山市教育委員会のご協力をいただいた。関係機関及び関係者の方々に感謝します。
3. パンフレットの執筆及び編集は奈良市埋蔵文化財調査センターの職員で分担して行った。

展示した主な遺跡



ベンシヨ塚古墳 [奈良市山町塚廻] 古墳時代

J R 帯解駅東方にある全長約70mの前方後円墳です。古墳の周囲をめぐる濠も含めると全長約100mの大きさになります。墳丘の裾には円筒埴輪が立て並べられ、後円部の頂上にも、家や盾や鶴をかたどった埴輪が並んでいたと思われます。また、後円部の頂上には3基の木棺が納められ、玉(勾玉、管玉、小玉)、武器(槍、鎌)、武具(甲冑)、工具(鑿、斧、砥石)、馬具(鞍、雲珠)などが副葬されていました。これらの副葬品からみて、この古墳はおおむね5世紀中頃につくられたものと考えられます。この古墳は帯解の地域では最も早くつくられ、かつ最も大きな古墳です。おそらく、この地域を治めていた人の墓であろうと考えられます。

横領遺跡 [奈良市四条大路四丁目] 弥生時代

横領遺跡は、近鉄尼ヶ辻駅の東約1kmのところにある弥生時代後期(2~3世紀)の集落遺跡です。発掘調査の結果、竪穴住居跡1棟、溝5条と20基あまりの性格不明の土坑がみつかりました。竪穴住居跡は、直径6mの円形のもので、壁に沿って浅い溝が掘られています。柱は4本です。中央には炉があり、その内部や周囲には炭化物が残っていました。住居跡からは、弥生時代の壺、甕、鉢、高杯、器台やサヌカイトの石鏡と剝片が出土しました。今回の調査結果から、この付近一帯に集落が広がっていたと考えられます。



◀ 馬具(鞍)出土状態(ベンシヨ塚古墳)



竪穴住居跡(横領遺跡) ▶

杉ヶ町遺跡 [奈良市杉ヶ町] 弥生時代

杉ヶ町遺跡は、J R 奈良駅の南東約400mのところにある弥生時代後期（2～3世紀）の集落遺跡です。発掘調査の結果、竪穴住居跡3棟と深く掘り込まれた土坑がみつかりました。竪穴住居跡は、いずれも平面の形が一辺5m前後の正方形で、柱は4本です。3棟の住居跡は、おたがいに一部が重なり合うことから、建っていた時期が少しずつ違うことがわかりました。土坑は、平面が直径1mの円形で、深さは1.2mです。中から弥生時代の壺、甕、鉢、高杯、器台が出土しました。

長谷遺跡 [奈良市佐保台西町] 古墳時代

J R 平城山駅西側にある古墳時代中期（5世紀）の集落で、平面が正方形の竪穴住居跡5棟がみつかりました。住居跡の一部には炭化材や焼土が残っており、火災により集落が途絶えたと思われます。またカマドがある2棟の住居跡から、置かれたままの状態ですり器の甕、甕、鉢、鉢、碗が出土しています。

この遺跡の位置は、大和から山城へ抜ける「コナベ越え」と呼ばれた古道沿いにあたります。歌姫谷川の谷すじにあたり、こうした交通の要所であるという条件のもとに集落がつくられたものと思われます。



◀ 弥生土器（杉ヶ町遺跡）

古墳時代土師器（長谷遺跡）▶



菅原東遺跡 [奈良市菅原町] 古墳時代

菅原東遺跡は、近鉄大和西大寺駅の南約800m、阪奈道路のすぐ北側に広がる弥生時代から室町時代までの複合遺跡です。古墳時代の遺跡では、これまでの調査で前期と後期の遺構が見つかっています。古墳時代前期の遺構には竪穴住居跡10棟、井戸、溝、お祭りやゴミ捨てに使われたらしい土坑があります。竪穴住居跡はいずれも平面の形が正方形で、一辺が3mほどと6mほどのものがあります。柱の跡が残っていなかったのどのような構造の住居かはよくわかりません。古墳時代後期の遺構には掘立柱建物1棟、溝、土坑があります。古墳時代にここで人々の生活が営まれていたことがわかりました。近くには佐紀厩列古墳群、宝菜山古墳(横仁陵)があり、さらに調査が進むとこれらの古墳との関係も明らかになってくることでしょう。

平城京右京三条三坊一坪 [奈良市菅原町] 奈良時代

さきに説明した菅原東遺跡の位置は、奈良時代の都である平城京の土地区画では右京三条三坊一坪にあたります。発掘調査の結果、この坪(区画)は奈良時代を通じて宅地として利用されていて、その様子は大きく4回変わっていることがわかりました。当初この坪は北と南の二つに区切られてそれぞれ別々に利用されていましたが、その後、一つの敷地として利用されるようになります。敷地の中央には塙で取り囲んだ掘立柱建物の土殿があり、整然とした建物の配置になっています。この坪の面積は11,000㎡もあり、これだけの広い土地をまとめて割り当てられるのは五位以上の貴族であったと言われています。ところが、奈良時代の終わり頃には小規模の掘立柱建物が散在するようになり、都が平安京へ移った後の9世紀前半にはこうした建物も廃絶するようです。

土地区画整理事業と発掘調査

現在、奈良市はJ R 奈良駅及び近鉄大和西大寺駅周辺で土地区画整理事業を進めています。それぞれの事業対象地は、20~30haにも及ぶ規模なもので、全域が平城京跡に含まれています。こうした広範囲な事業地で全域が遺跡に含まれている場合は、計画的に発掘調査を行う必要があります。

奈良市教育委員会では、昭和63年度から両事業地の発掘調査を開始しました。J R 奈良駅周辺の対象地では、駅の西側にある旧国鉄操車場から調査することを計画し、今までに約4,200㎡の調査を終了しています。近鉄大和西大寺駅周辺の対象地では、菅原町の水田から調査を始め、今までに右京三条三坊一坪にあたる地区の全域約11,000㎡の調査を終了しています。

こうした土地区画整理事業の対象地では現在も引きつづき調査を行っています。

— 胎衣壺をめぐる —

胎衣を納める風習

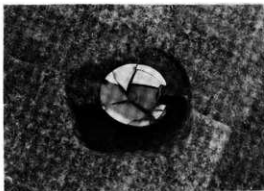
子どもの誕生、成長に関しては古くから様々な儀式や風習があります。その一つに、出産時に排出される胎盤（胎衣）を埋納する風習があります。この胎衣を納めた容器を「胎衣壺」と呼んでいます。縄文時代の中頃の埋納壺を胎衣壺とする説もありますが、その起源は明らかではありません。菅原東遺跡で発見された胎衣壺は古墳時代前期の土師器の壺や甕を用いており、残存脂肪分析法によって科学的に実証された胎衣壺としては最古の例です。これらの胎衣壺は古代人の精神生活を知るうえで大変有力な手掛かりであり貴重な資料と言えるでしょう。

胎衣壺のまじない

11世紀以降のいくつかの文献には胎衣壺の中に胎衣とともに錢、筆、墨などを納めていたことや、その埋納場所は古いによって吉方を選んでいたことが記載されています。民俗資料では、ともに納める品物や埋納場所にそれぞれ地方独特のものがありますが、一律に子どもの将来を案じるおまじないの要素をもっているようです。平城京左京五条一坊八坪から出土した奈良時代の須恵器の壺の中には、和銅開珎5枚が入っており、残存脂肪分析法によって胎衣が納められていたことも確認されました。おそらく奈良時代頃から胎衣の埋納はその子の出世を願うなどのおまじないとして定着したものと思われます。

残存脂肪分析法

動植物を構成している主要な成分にタンパク質、糖質、脂質があり、これらの成分は長い年月の間に様々な条件によって徐々に分解して行きますが、このうち脂質の一つである脂肪は数万年の時間を経ても比較的变化なく遺存します。そしてその主成分である脂肪酸及びステロールは動植物の種や部位によって組成が異なります。このことから、検出される脂肪酸及びステロールを化学分析することによってそれが何の脂肪であったのかをつきとめるのが「残存脂肪分析法」です。平城京左京五条一坊八坪から出土した胎衣壺はこの方法によって科学的に証明された最初の例です。



胎衣壺出土状態（平城京右京三条三坊一坪）

「養老」銘土器 [奈良市宝来町] 平城京右京三条二坊五坪

この遺跡で見つかった円形の素掘り井戸の中から、ヘラで文字を刻んだ須恵器の壺が出土しました。文字は2ヶ所に刻まれていて、肩部のものは「養老□□□十五日」、底部のものは「本」と読むことができます。これらの文字はいずれも土器を焼く前に刻まれたものです。「養老」は西暦717年から723年にかけて使われた年号ですので、この壺のつくられた年代がわかります。ヘラで文字が刻まれている土器は平城京跡でいくつ出土していますが、年号が刻まれているものはこれが初めてです。

各地から運ばれた土器

平城宮や京内からは、「税」として各地から運ばれた土器が多量に出土しています。須恵器は、和泉でつくられたものが大半を占めますが、尾張・美濃・播磨でつくられたものもみつかっています。

土師器は、大和・河内・山城・近江など平城京周辺地で作られ運ばれてきたものがほとんどです。まれに、甲斐などの遠方でつくられたものがみつかることがありますが、これらはごくわずかで、「税」として納められたものではないようです。

海外から運ばれた土器

平城京跡で発見される土器の中には、数は少ないですが、はるばる海外から運ばれてきたものもあります。唐三彩や統一新羅系土器はその例です。

唐三彩は、7世紀から8世紀頃の中国で作られた土器で、表面に白・茶・緑・藍色のうわ薬で色付けしているのが特徴です。

統一新羅系土器は、8世紀から10世紀の朝鮮で作られた土器で、花・鳥・幾何学文様などのスタンプを押し付けてにぎやかに飾ったものです。

こうした土器は、当時の海外との交流の一端を物語る貴重な資料です。

ものをはかる道具

最近の発掘調査では、奈良時代のものをはかる道具の発見がいくつかありました。長さをはかる道具にはものさしがあります。正倉院に伝わる華麗な装飾がある象牙製のものがよく知られていますが、遺跡から発見されているものは木製で、墨で目盛りがつけてありました。奈良時代の1尺は約29.6cmで、現在の曲尺の約30.3cmよりも少し短かったのです。分量をはかる道具には枡があります。コップ形をした須恵器の椀で底に墨で「三合一夕」と書かれたものがみつかりました。奈良時代の1合は約73ccで、現在の1合(約180cc)の40%にあたります。したがって三合一夕(𠄎)は約226ccとなり、この椀の実際の容量約200ccはこれに非常に近い値となります。重さをはかる道具には分銅があります。銅製のものが大小1個ずつ発見されていますが、大きなものは約329g、小さなものは約40gあります。この重さは、奈良時代の重量の表し方ではそれぞれ8両と1両にあたります。



◀ 「養老」銘土器

(平城京右京三条三坊五坪)

大和・山城・和泉の土器 ▶

(平城京)

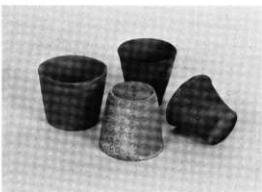


◀ 統一新羅系土器

(平城京左京八条三坊一坪)

枡 ▶

(平城京右京五条一坊十五坪・他)



史跡大安寺旧境内 [奈良市大安寺町] 奈良時代

大安寺は、南大門・中門・金堂・講堂が南北に一直線に並び、東西両塔が南大門前の塔院という別の区画の中に建つという独特な伽藍配置で、「大安寺式」と呼ばれています。昭和29年(1954年)以来伽藍の正確な位置や建物の規模・構造を把握するための発掘調査が続けられています。南大門と南面回廊は昭和29年に発掘調査されて、それぞれ基壇と柱の礎石が確認されています。今回その調査地を含んで再び発掘調査したところ、南大門では柱の礎石を置いた穴や門をつくる時に組んだ足場の穴が、南面回廊では基壇の外回りを飾る石列が新たにみつけられました。また、南大門は地面を深く掘り込んだ後粘土を丁寧にたたきしめながら積み上げて築いていたことがわかりました。この調査成果は、大安寺の建築技術を知るうえで重要なものです。

古市麁寺 [奈良市古市町] 奈良時代

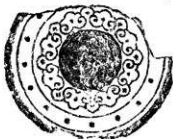
古市麁寺は、高円山の山すそに点在する古代寺院のひとつで、この周辺で勢力をもっていった小野氏の氏寺とみられています。昭和35年(1960年)に塔跡と金堂跡とみられた土壇の一部が発掘調査され、伽藍配置は南大門・中門・塔・金堂・講堂が、列に並ぶ四天王寺式であると推定されました。

今回は、昭和35年の調査地の西側で塔と金堂を囲む回廊が推定される場所の発掘調査を行いました。調査の結果、奈良時代から平安時代はじめにかけて、全部で掘立柱建物9棟と掘立柱塼1条がみつけられましたが、回廊とみられる遺構は残っていませんでした。出土遺物の大半は瓦で、土器はごくわずかでした。瓦には、宝相華文軒丸瓦とよばれる非常に珍しいものや、興福寺式軒丸瓦などがあります。

古市麁寺の伽藍配置と今回新たにみつかった9棟の掘立柱建物との関係を明らかにすることが今後の重要な検討課題です。

舶来のデザイン

古市麁寺の屋根瓦の中には、宝相華文と呼ばれる文様を飾った大変に珍しい奈良時代の軒丸瓦があります。宝相華文は西域・中国で考案された想像上の植物の花形文様で、古市麁寺の瓦では、唐草状の宝相華文が一つ一つの輪のように表現されています。宝相華文は中国・朝鮮・日本の古代文物に広く使われた文様のひとつですが、瓦の文様の図案にこれを積極的に取り入れたのは朝鮮半島の統一新羅(668~935年)でした。新羅の宝相華文瓦は、造形美にあふれた華麗なものが多く、極めて芸術性の高いものへと発展しました。



宝相華文軒瓦(古市麁寺)

第8回 平城京展

—奈良市の最近の発掘調査成果—

平成2年11月10日発行

編集・発行 奈良市教育委員会

印刷

甲斐型杯 (法蓮町出土)	胞衣壺 (西木辻町出土)	胞衣壺内の 和同開珎 (菅原町出土)
唐三彩 (五条町出土 八条町)	軒丸瓦 (古市町出土)	分銅 (西九条町出土)
「養老」銘壺 (宝来町出土)	弥生土器 (杉ヶ町出土)	橋 (五条町出土)

(表紙写真)